



～ 未来へとつながれ 広がれ 富岡町 ～

Coming  
soon !!

# 富岡町TWBアクセラレーター2024 Webセミナー

1. TWBアクセラレーター2024について
2. パートナー企業等の募集について
3. オープンイノベーションとその進め方について

令和6年3月28日(木)  
13:00 ▶ 14:30





Coming soon !!

富岡町オープンイノベーションプログラム  
第1回TWBアクセラレーター2024

2024.03.28





# I. 富岡町の現状と取組み

— 復旧・復興から、未来の形へ —





# 富岡町ってどんな町？



福島県浜通り地方の中央に位置  
太平洋と阿武隈山地との間に広がる  
**面積68.39km<sup>2</sup>、人口16,000人**の町  
**年間降水量1,533mm**  
**年間平均気温13.8℃**  
温暖で過ごしやすい地



『とみっぴー』  
富岡町公式  
マスコットキャラクター



## 町の木【サクラ】



明治33年、夜の森が開拓された際に植えられた桜が今では町のシンボルとなりました。毎年開花と同時に見物客で賑わっています。

## 町の花【ツツジ】



全国花いっぱい「花と緑の駅」コンクールで日本一に輝いたJR常磐線夜ノ森駅のツツジは、旅人の目を楽しませています。

## 町の鳥【セキレイ】



水辺に生息するセキレイは、富岡川の清らかな流れとチチチッと爽やかなさえずりが人々の心を和ませる。

# 震災と原発事故による複合災害(東日本大震災)



## 【富岡町の被害】

- 21.1メートルの津波襲来
- 震度6強の揺れ
- 死者（行方不明者含む）24人

## 【発生時刻】

平成23（2011）年3月11日（金）  
14時46分

## 【震 源】

三陸沖の宮城県牡鹿半島の  
東南東 130km付近、深さ約24km

## 【地震の規模】

マグニチュード9.0  
(国内観測史上最大規模、  
1990年以降世界4番目の規模)

## 【震 度】

宮城県北部の栗原市で最大震度7  
が観測されたほか、宮城県、福  
島県、茨城県、栃木県などで震  
度6を観測。北海道から九州地方  
にかけて、震度6弱から震度1の  
揺れが観測された。

## 【津波】

岩手県、宮城県、福島県を中心とした太平洋沿岸部  
を巨大な津波が襲った。福島県相馬市9.3m以上、岩  
手県宮古市8.5m以上、大船渡市8.0m以上、宮城県石  
巻市7.6m以上などが観測されたほか、宮城県女川漁  
港で14.8mの津波痕跡も確認された。遡上高（陸地  
の斜面を駆け上がった津波の高さ）では、国内観測  
史上最大の40.5mが観測された。





# 震災と原発事故による複合災害(原発事故)

平成23 (2011) 年

3/11 14:46 東北地方太平洋沖地震 発生  
富岡町災害対策本部 設置

15:30 津波襲来

## 【第1回目の避難：町内の集会所や体育館】

19:03 福島第一原発 原子力緊急事態宣言 発令

21:23 第一原発半径10km圏内 屋内退避指示 発令

3/12 05:32 第一原発半径10km圏内 避難指示 発令  
富岡町・川内村災害対策合同本部 設置

## 【第2回目の避難：川内村】

15:36 福島第一原発1号機 水素爆発

18:25 第一原発半径20km圏内 避難指示 発令

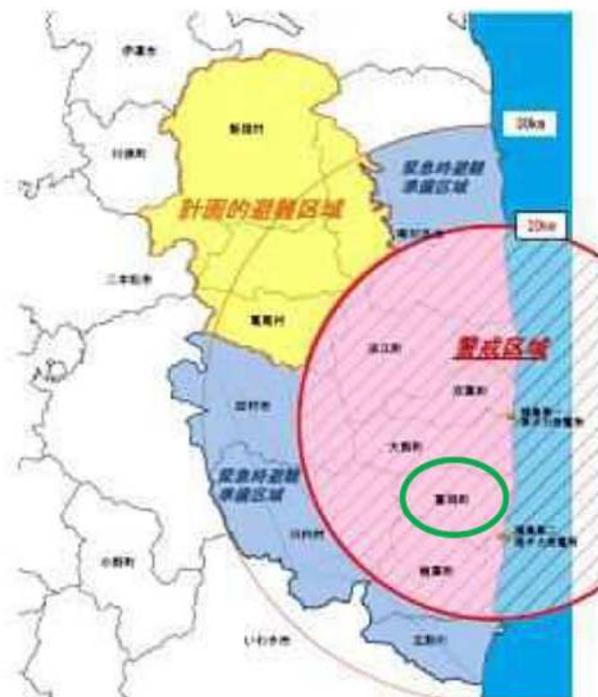
3/14 11:01 福島第一原発3号機 水素爆発

3/16 富岡町民・川内村民の避難

## 【第3回目の避難：郡山市 (ビッグパレットふくしま)】

4/22 福島第一原発半径20km圏内

**警戒区域に設定 (富岡町 全域)**



川内村に向かう避難の列



富岡町・川内村災害対策合同本部



ビッグパレットふくしまでの避難生活



誰もいなくなったまち



# 震災と原発事故による複合災害(長期避難)

## 町の様子



全町避難により管理できずに放置される漁船(左)や廃墟と化する街並み(中・右)



着の身着のまま避難したために放置されたペット(左)・家畜(中)・人がいないため街中に出没するイノシシ(右)

## 一時帰宅



## 家屋被害

- 警戒区域の設定に伴い
- ・修繕などの管理が不可能
  - ・鳥獣や小動物による被害
  - ・窃盗・盗難の発生
  - ・換気ができないためカビの発生
- など、被害が拡大



<令和5年4月1日時点>

全壊 (50坪以上)	420棟
大規模半壊 (40~49坪)	997棟
半壊 (20~39坪)	3,124棟
一部損壊 (20坪未満)	1,170棟
損壊なし	192棟
合計	5,903棟



# 復旧・復興への歩み①

どの道を選んでも ふるさとに誇りを感じ

富岡のつながりを保ち続けられる町

これから加わる仲間も 居心地よく 親しめる地域をめざして

(富岡町災害復興計画第二次 H27.6策定)

## 【2つの基本理念】

### ○町民一人ひとりの『心』の復興

- ☆町民の生活再建と自立を支援し、町とのつながりを持ち続けられる環境を整えます。
- ☆仲間との笑顔、誇りと自信を心の中に取り戻し、未来の子どもたちに伝えていきます。

### ○町民の心をつなぐ『ふるさと富岡』の復興

- ☆町民の心をつなぐふるさと富岡の復旧・復興を図ります。
- ☆生活・仕事・文化の再生と、将来の発展に向けた魅力ある拠点整備や土地利用を進めていきます。



「人が生き 町が活き 未来がいきる 富岡町」



## 復旧・復興への歩み②

### 富岡町災害復興計画(第二次)後期策定

- 計画策定から5年
- 福島復興再生特別措置法等の改正や福島第二原子力発電所の廃炉決定、急速な少子高齢化など、町を取り巻く状況が大きく変化。
- 令和2年3月、基本理念及び基本方針を踏襲しつつ、これまでの取り組みや新たな課題の解決、持続可能な町づくりをめざす第二次計画の後期5ヶ年の計画を策定



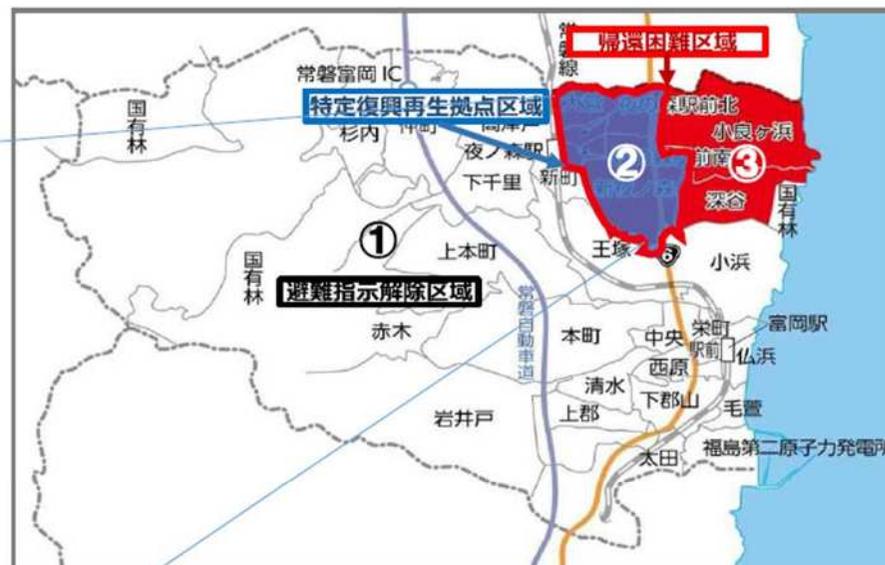
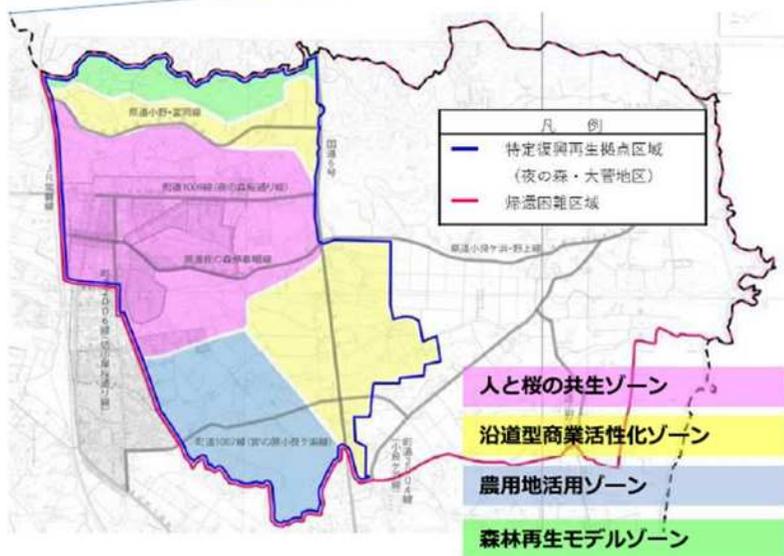
富岡町は、『令和6年度』に災害復興計画(第三次)の策定を予定しており、今後新たな事業展開について模索しています。



# 復旧・復興への歩み③

## 帰還困難区域の再生【富岡町特定復興再生拠点区域復興再生計画】

- 平成29（2017）年4月1日帰還困難区域（赤線枠内）を除き避難指示を解除し帰町を開始
- 平成30（2018）年3月9日、帰還困難区域内の特定復興再生拠点区域（青着色部分）復興再生計画の内閣総理大臣認定、令和5（2023）年春の避難指示解除をめざして除染やインフラ復旧をはじめとする各事業に着手。



# 富岡町の現状



○人口	15,830人	→	<u>11,497人</u> (△4,333人)
○世帯	6,302世帯	→	5,688世帯 (△614世帯)
○町内居住届出数			<u>2,344人</u> (1,662世帯)

R6.3.1現在

## 【富岡町からのお願い】

今は震災前と比べて居住者が『18%』しかいない

新たな富岡町として再出発するためには

様々な人々との交流が『鍵』となる

私たちも知らない富岡町の可能性や魅力を表現して欲しい





# 富岡町が求める可能性

富岡町が抱える問題点は、

- 震災・原発事故及び長期避難開始から12年超の年月・・・時の経過による『風化』
- 世界にも類を見ない原子力災害の被災・・・誤った情報とその拡散による『風評』
- 長期の避難生活・・・町民の高齢化と、避難先での定住、自宅解体による『居住者数低迷』  
など

世界に類のない未曾有の複合災害からの復興には、既存の概念や財源に捉われた事業のみでは限界がきている。



既存の概念に囚われない新たな可能性の検討、  
富岡町の未来を形作る方向性の模索が必要



## Ⅱ. とみおかワーキングベース(TWB)と オープンイノベーションの取組み





# 背景(1) 福島県双葉郡における復興再生の現状

双葉地方は、2011年3月11日の東日本大震災・原子力災害で甚大な被害を受けました。当被害に伴い、長期間の全町避難を強いられ、地域コミュニティや文化・伝統・産業などを喪失する危機に直面している町村も存在します。双葉郡8町村には帰還困難区域を抱える町村もあり、急速に進む人口減少、民間消費の他域への流出、行政コストの増大など、まだ多くの課題が山積しています。

## ■帰還状況

- 居住者数(帰還者)の伸び悩み
- 生産年齢人口(15～64歳)の不足
- 避難指示が解除されても戻らない住民が多い

## ■進むべき方向性

- 「子育て世帯」や「新たな住民」の呼び込み＝移住促進の方針へ
- (町に戻らなくても)町とのつながりを持ち続けられるまちづくり
- 国の「イノベーション・コースト構想」による新たな産業・雇用と融合させたまちづくりのに向けた産業団地整備や企業立地の促進

👉 どうすれば国の「イノベーション・コースト構想」、地域産業ビジョンである「ふたばブランドデザイン」を活かし、新たな産業創出・雇用との融合による交流人口・生産年齢人口の拡大が図れるのだろうか？



## 背景(2) 地方創生における「新しい産業」の動向

2020年、コロナ禍による大きな社会変動が起きました。

当社会変動に伴い、新しい生活様式への変容を余儀なくされ、新しいコミュニケーション方法やシステムの進化、従来になかったビジネスも出現し、わたしたちの価値観も大きく変化しました。

### ■多様な働き方の台頭

- ・働き方改革「同一労働同一賃金」の実施(大企業2020年～、中小企業2021年～)
- ・テレワークという新しい働き方

### ■社会課題解決型ビジネスの台頭

- ①デジタル・ツールを活用したイノベーションの創出余地の拡大
- ②環境関連政策の世界的な推進からの後押し
- ③民間企業が社会課題の解決に乗り出すことへの社会的要請

### ■スタートアップと社会課題

スタートアップが未開拓のブルーオーシャンの一つとして注目するようになったのが、社会課題の分野

### ■既存産業では地方の格差は埋まらない

大都市との所得格差の問題、地方には専門職のニーズは高いものの、都会に出た大学新卒者にとって「やりたい仕事がない」という根本的な問題

👉 どうすれば、社会課題解決分野を産業化したい「大企業」を巻き込み、既存産業に代わる「情報通信産業」と「研究・技術サービス業」などの「新しい産業」が図れるのだろうか？  
どうすれば大都市に続々と生まれている副業者、テレワーカー、スタートアップという人々を「地方に新しい産業を作りこむパワーとして」取り込むことができるか？



# 目的と実施手段

## オープンイノベーションを成功させるエコシステムの形成

他の地域と差別化を計る「テーマ」設定

### 関係者とは

- ・地域課題を解決したい「町」
- ・社会課題解決分野を産業化したい「大企業」
- ・地方活力の再生を支援したい知識・技術力を持つ「副業者、テレワーカー、スタートアップ」

「テーマ」= 地域課題(社会課題)  
・町の「復興計画」  
・国の「イノベーション・コースト構想」  
・地域産業ビジョンの「ふたばグランドデザイン」



①関係者の媒介となる  
リアルな「拠点」の整備



②関係者の媒介となる  
バーチャルな場  
「プラットフォーム」の活用



③連携事業の「駆動役」となる  
オープンイノベーションの実施  
(アクセラレータプログラム)

地域と社会の課題を「情報通信産業」と「研究・技術サービス業」などの「新しい産業」により解決する持続的な取組み

### エコシステムとは

企業、自治体、開発業者、代理店、宣伝媒体などが一体となって作り出す、共栄共存の仕組みのことです。エコシステムの構築を前提として、オープンイノベーションを推進する自治体が増えていきます。  
エコシステムのテーマの設定、拠点作り、企業の誘致、スタートアップへの支援などを有機的に連動させて、新しい産業の創出を促進し、持続可能な経済圏を作ることを目的としているところがポイントです。

①関係者の媒介となるリアルな「拠点」の整備

# 富岡町サテライトオフィスのイメージ



1F コワーキングスペース



ミーティング、ソロワーク、  
商談、休憩などさまざまな  
用途で利用できる共用  
フロア

2F 専用個室



数名で利用可能な専有空間で  
個人・法人のメインオフィスや  
サテライトオフィスに利用する  
フロア

## とみおかワーキングベース(TWB)の機能



コワーキングスペース



半個室デスク



Web会議室



Wi-Fi・電源



複合機



ロッカー



シャワールーム

URL : <https://my.matterport.com/show/?m=UHYhMqqUaQ9>

①関係者の媒介となるリアルな「拠点」の整備



# 富岡町サテライトオフィスTWBの位置

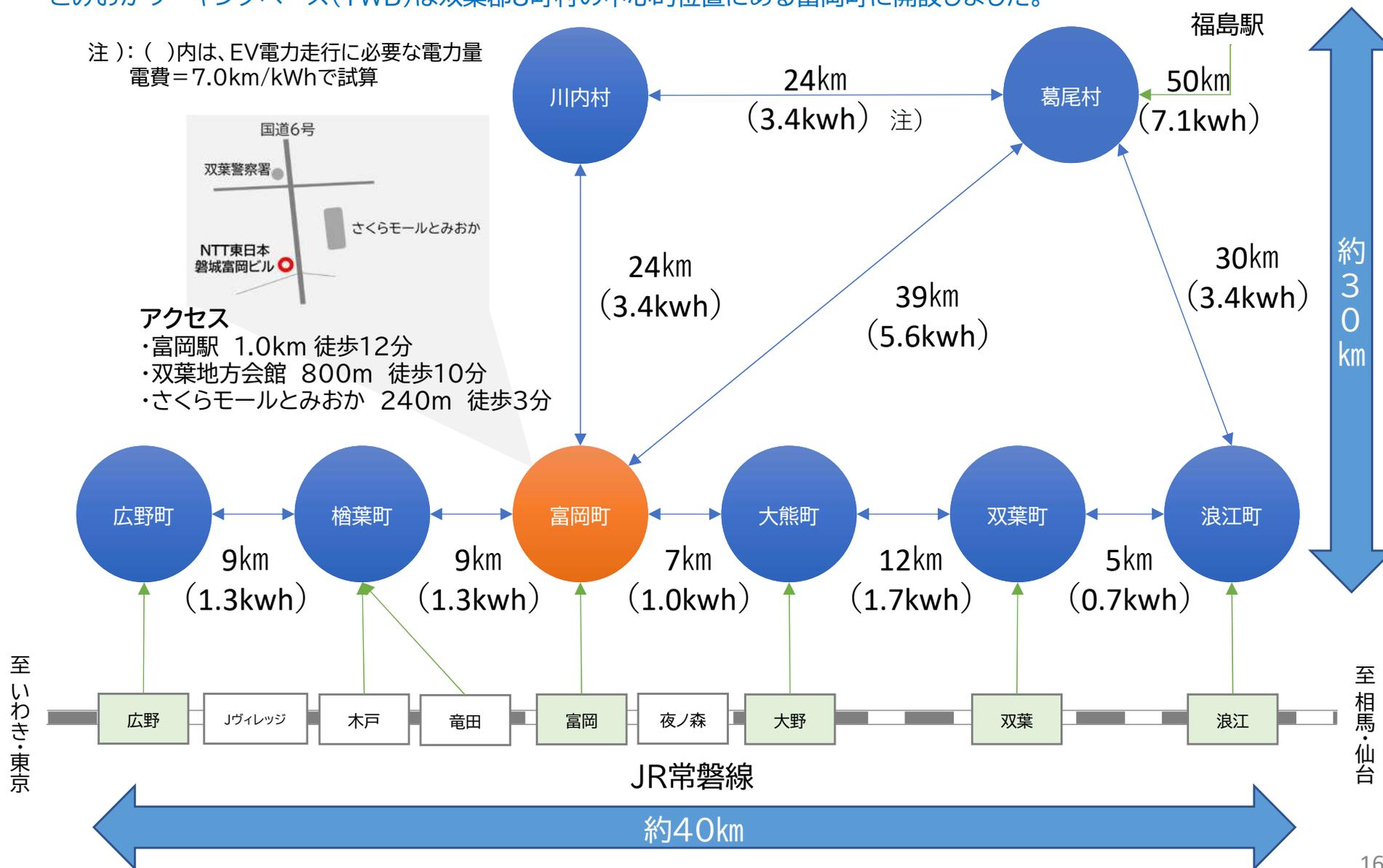
とみおかワーキングベース(TWB)は双葉郡8町村の中心的位置にある富岡町に開設しました。

注): ( )内は、EV電力走行に必要な電力量  
電費 = 7.0km/kWhで試算



**アクセス**

- ・富岡駅 1.0km 徒歩12分
- ・双葉地方会館 800m 徒歩10分
- ・さくらモールとみおか 240m 徒歩3分





# とみおかワーキングベース利用料金

## 施設利用料金

名 称		利 用 料 金	その他
1階	コワーキングスペース	一般 1,000円/日 学生 500円/日	予約要
	会議室	一般・学生 2,000円/時間	予約要
	シャワー室	一般・学生 1,000円/時間	予約要

※とみおかワーキングアプリより予約が必要です。

## 会員料金・入会費

名 称		会員料金	入会費(初回のみ)	その他
専用個室(2階) 会員	2名用 D 室	59,000円/月	118,000円	入居申請
	3名用 A・B・C・H・I 室	63,000円/月	126,000円	
	4名用 E・F・G 室	76,000円/月	152,000円	
	6名用 J 室	101,000円/月	202,000円	
ワーキング会員	企業	30,000円/月	60,000円	入会申請
	個人	10,000円/月	20,000円	

※各会員はコワーキングスペース、会議室、シャワー無料(会議室・シャワー予約要)

※専用個室会員がアプリ会員の入会費を支払っている場合の入会費は、当入会費からアプリ入会費を差し引いた額とする。

②関係者の媒介となるバーチャルな場「プラットフォーム」の活用

# オープンイノベーションプラットフォームの機能



アクセラレータプログラムの開催からエントリーされたアイデアの管理、アイデアの選考やスタートアップとのコミュニケーションまでを「プラットフォーム」上ですべて行なえます。

スタートアップが  
集まる・出会える



データベース（Creww社）に存在する、7500社以上のスタートアップへ告知でき、気になるスタートアップへ自らアプローチすることも可能です

情報管理が簡単に



開催に必要な情報のリストアップ機能で、関係者内で漏れなく情報を集め、スムーズにアクセラレータプログラム作成が可能



レポート機能で関係者内へ進捗を簡単共有

連絡をシンプル・  
簡単に



共創パートナーとのコミュニケーションを一本化

オンラインでアイ  
デアのブラッシュア  
ップができる



質問形式に答えていくだけで、オンライン上でスタートアップと一緒にアイデアやコンセプトを育てていくことが可能

プログラム+

プログラム開催の  
知見を社内資産に



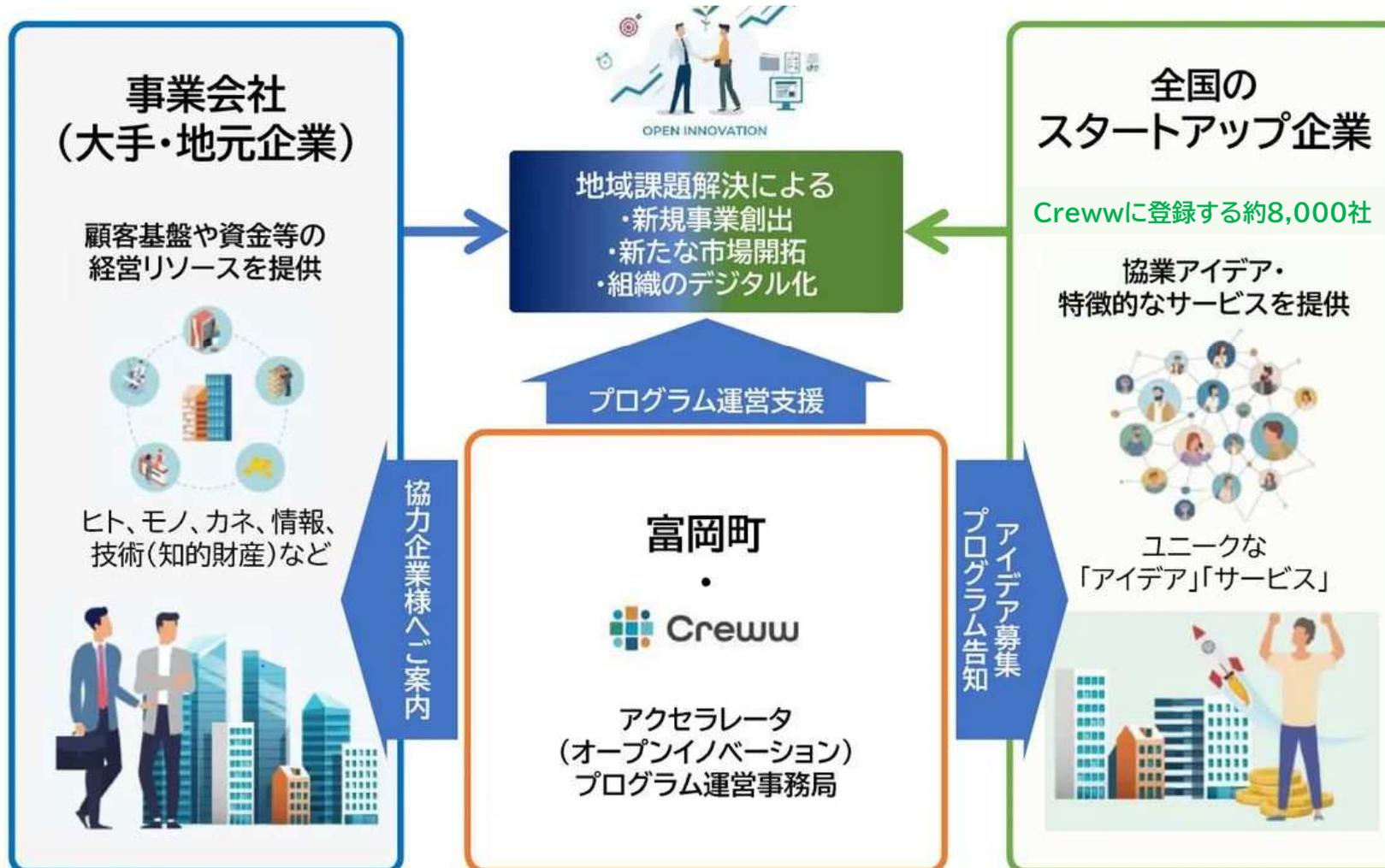
過去から現在までの協業案を一覧確認、開催時のノウハウを記録でき、関係者の資産として残せます

③連携事業の「駆動役」となるオープンイノベーションの実施(アクセラレータプログラム)



# アクセラレータプログラムのイメージ

アクセラレータプログラム(オープンイノベーション)は、外部の専門家や組織と連携する機会を提供します。地域課題に対して新たなアイデアや問題解決の方法を発見し、より迅速な対応と効果的な施策を開発することが可能となります。



③連携事業の「駆動役」となるオープンイノベーションの実施(アクセラレータプログラム)



# オープンイノベーション導入のメリット

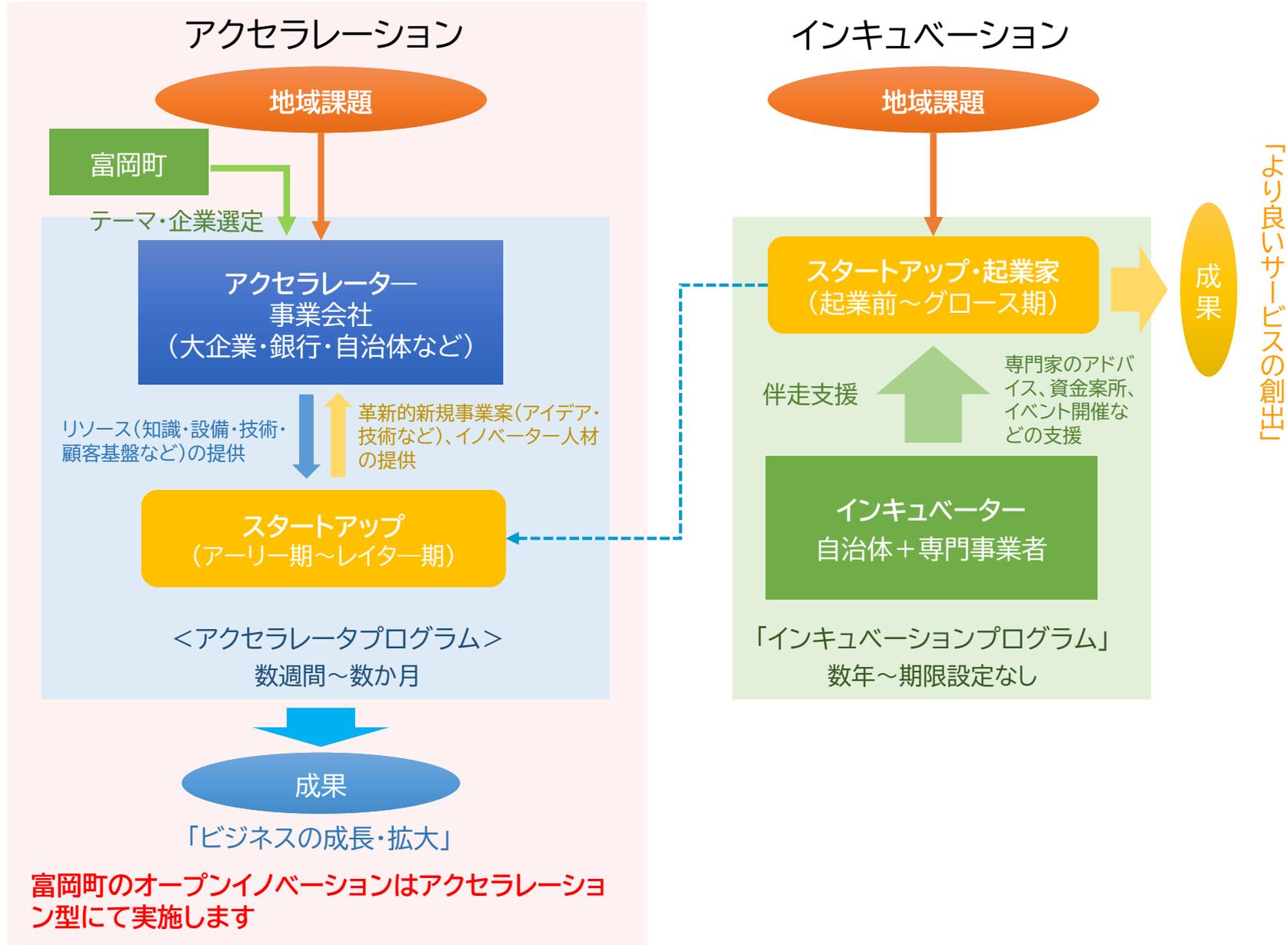
なぜ今、多くの企業がこぞってオープンイノベーションに取り組んでいるのでしょうか？  
それには、多くのメリットがあるからに他なりません。

 <p>事業開発の スピードアップ</p>	 <p>革新的な 新規事業案</p>	 <p>イノベーター人材の 育成</p>
<p>外部企業の技術を取り入れて協業するため、技術者を新規雇用したり部署を作ったりする段階を経ずに事業開発に踏み出せます。</p>	<p>社内だけでは既存のやり方や考え方から脱却するのは至難の業です。自社とは違う文化を持つ外部企業と連携するからこそ生まれるものがあります。</p>	<p>新しいことにチャレンジする経験を積んだ人材が社内に育ちます。社内を良く知りノウハウを持った人材がいれば毎回外部を頼る必要がなくなります。</p>

一社の企業だけで次々と新しいものを生み出せる時代も、  
ユーザーが新しいサービスの完成をゆっくり待ってくれる時代ももう終わりました。  
これからは外部の企業との共創によって  
スピーディーかつ効果的な事業開発が行われる時代です。



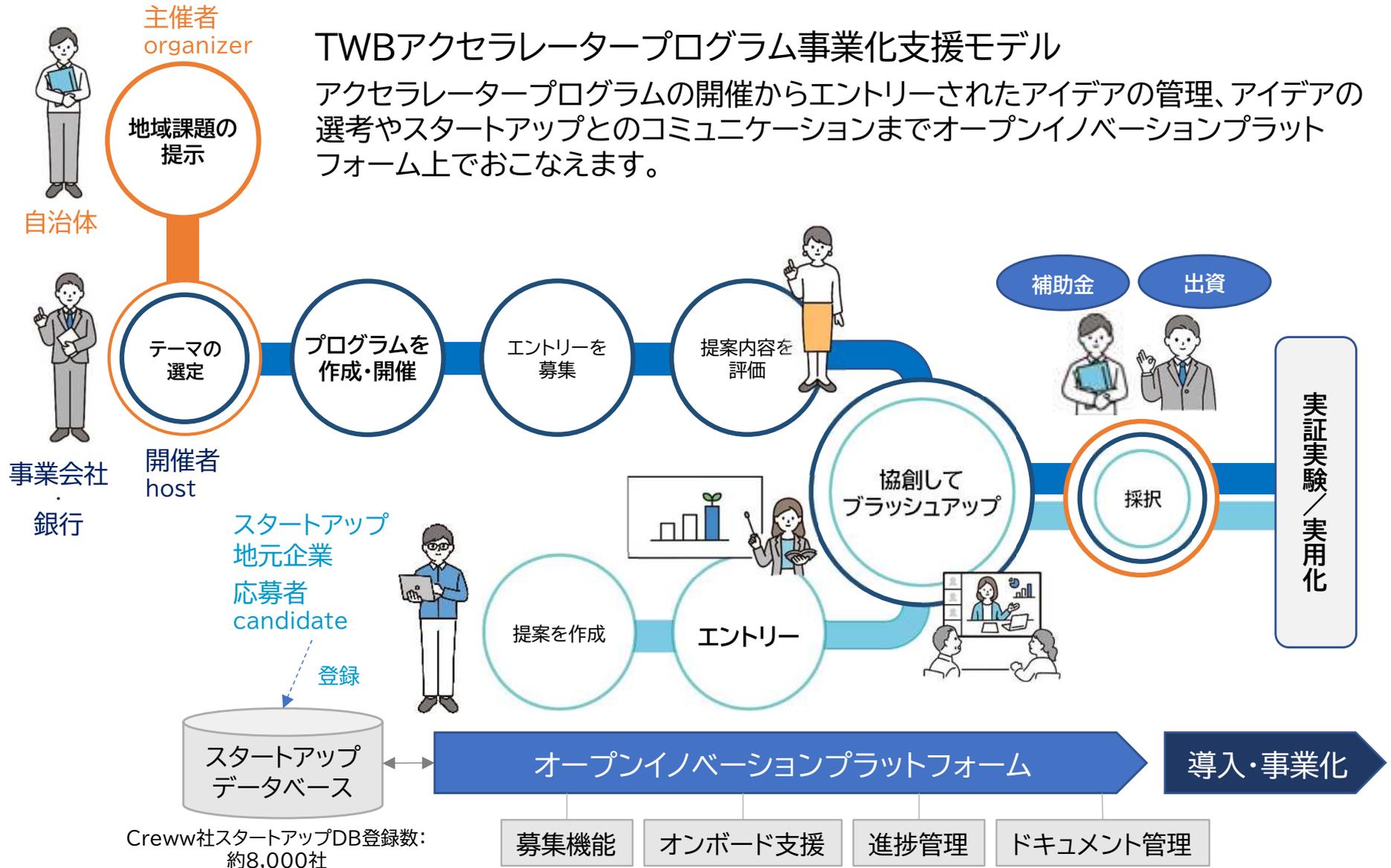
# オープンイノベーションの手法



③連携事業の「駆動役」となるオープンイノベーションの実施(アクセラレータプログラム)



# アクセラレータプログラムの実施イメージ

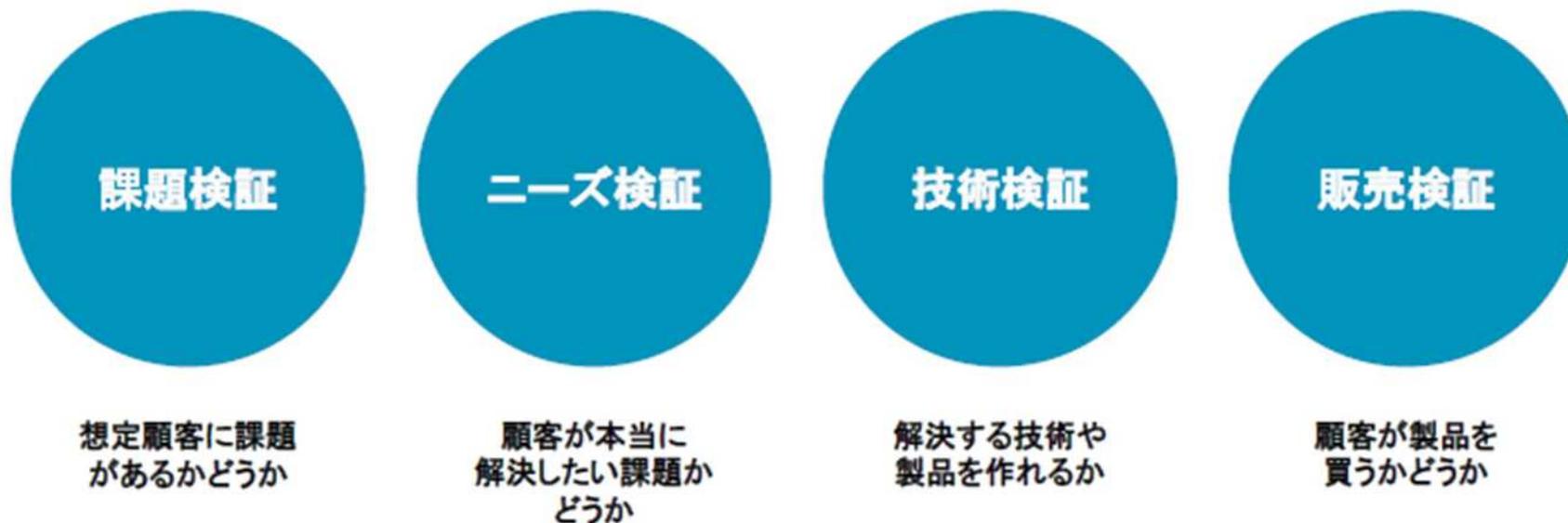




## 実証実験とは

実証実験とは、開発中の製品・技術・サービスなどを実際の場面でトライアル的に使用し、実用化に向けた問題点を検証することをいいます。「想定しているニーズが本当にあるのか」「技術的に作りたい製品は開発できるのか」など、**最小限のコストと期間でスモールテスト**を行います。

本格的に社会実装する手前に検証する範囲を絞り、**範囲毎に実現可能性・問題点・効果等を確認すること**で双方のリスクを軽減することができます。|



本プログラムでは、実証実験に進むパートナーを見つけ、迅速に実証実験に取り組むための予算化を目指すことを目的としています。

# TWBアクセラレータ2023 採択企業による実証実験(実用化開発)事業



## 音声自由対話AIを用いたフレイル予防アプリ基盤開発(株式会社emotivE)

### ■ 完成予想図





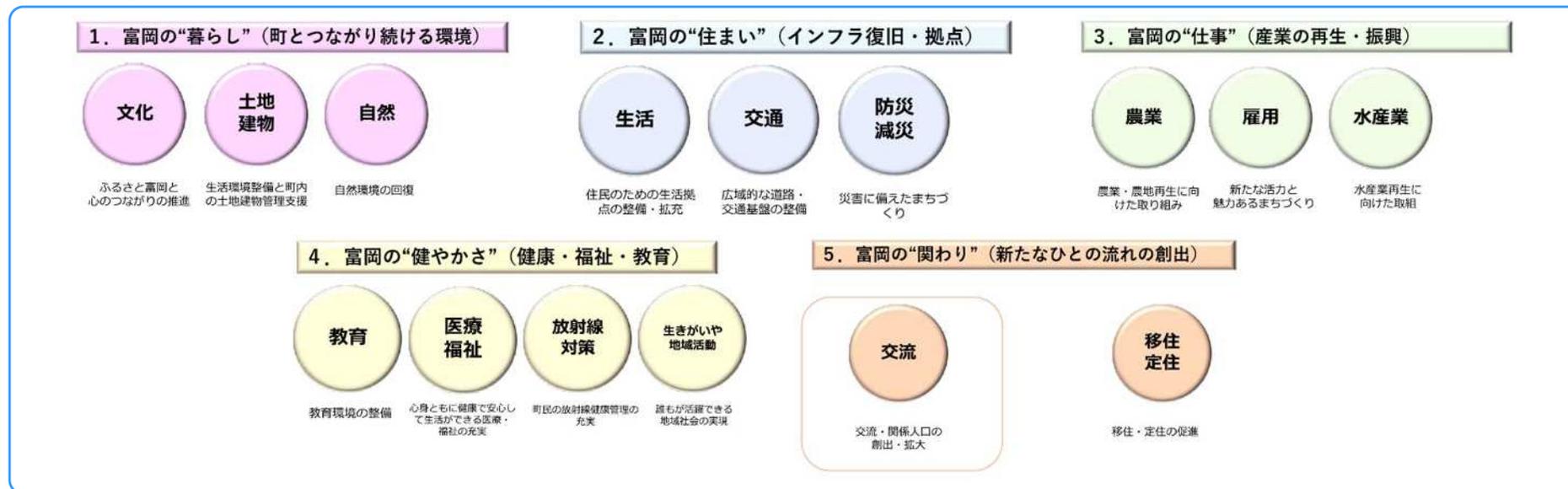
## Ⅲ. TWBアクセラレーター2024の概要





# 富岡町を復興へ導く募集テーマ

「富岡町災害復興計画(第二次)後期」の復興推進テーマ



「イノベーション・コースト構想」の重点分野、「ふたばグランドデザイン」の戦略構想等のテーマ



テーマの選定は、「富岡町災害復興計画」を促進できる分野、「イノベーション・コースト構想」の重点分野、「ふたばグランドデザイン」の戦略構想等からアクセラレータ役となるホスト企業に公募していただき、富岡町がその中から選定いたします。

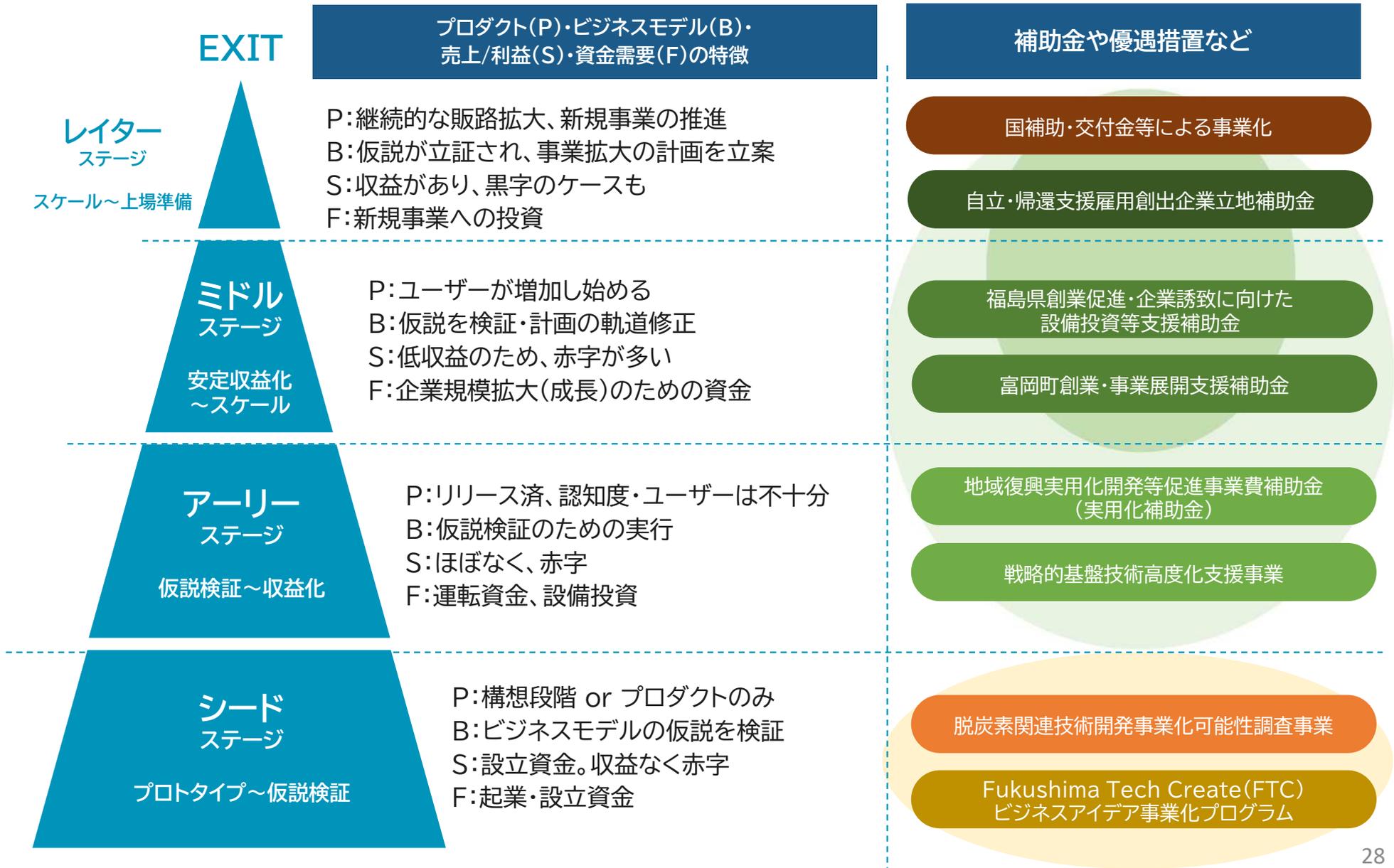
# TWBアクセラレーター2024参加企業のメリット



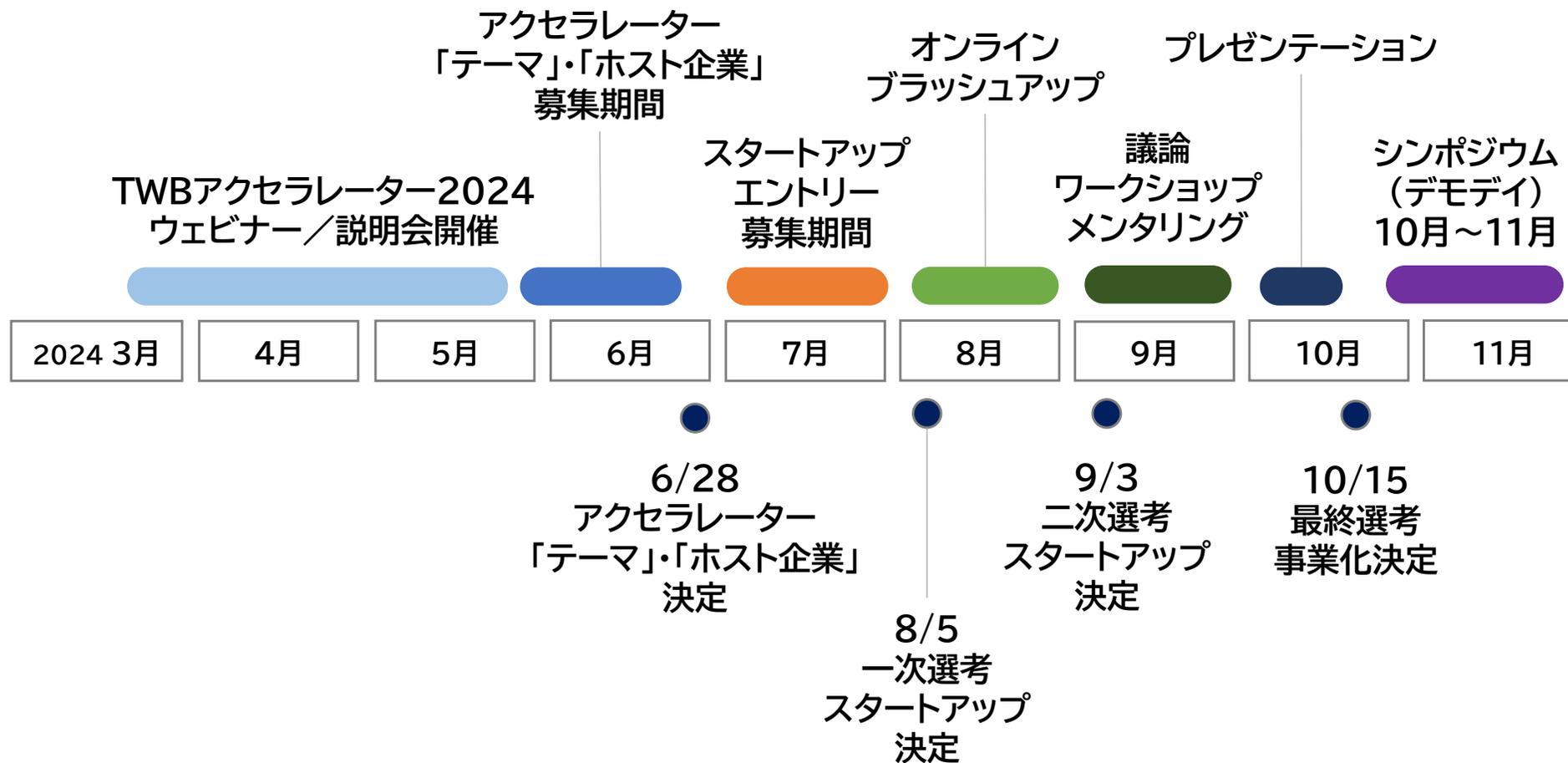
TWBアクセラレーター2024採択企業に対して富岡町が提供するリソースは、以下の通りです。今後ブラッシュアップのフェーズにて具体的な支援要望をヒアリングして、各々のテーマ(企業)にマッチした支援内容を提案いたします。

支援項目	内容
資金面のサポート	この地域で活用できる国・県・町・福島イノベーション・コースト構想推進機構等の各種補助金の紹介、利活用の支援
アクセス拡大	大企業(当町協力企業)および地元企業とのマッチング、製品・サービスの町内、双葉地域内での利活用の支援
共有オフィススペース	実験や開発の拠点としてとみおかワーキングベースの利用 ※地元企業限定の補助金/交付金の利用には拠点(登記)が必要となります
リソースへのアクセス	ホスト企業はアクセラレータープログラムの開催 実証実験の場として町保有のハードアセットの使用、富岡町保有の各種オープンデータの提供支援
デモデーとプレゼンテーションの機会	TWBアクセラレーター2024シンポジウム(予定)における「成果報告」「展示ブースでのデモ」「産官学連携交流会への参加」 福島県や福島イノベーション・コースト構想推進機構との連携による製品やサービスのPR

# スタートアップのステージと採択企業支援事業



# 第1回TWBアクセラレーター2024のスケジュール



※審査は一次選考が書類、二次選考が面談で行われます。

※日付、実施方法は予定であり、社会情勢などを踏まえて変更になる可能性があります。



富岡町の未来と  
皆さまの新たな活動の可能性への  
一助となることを願って



富岡町役場

本庁舎	福島県双葉郡富岡町大字本岡字王塚622-1 ☎0240-22-2111
いわき支所	福島県いわき市平北白土字宮前8 ☎0246-88-1987
郡山支所	福島県郡山市大槻町字原ノ町49-1 ☎024-983-9021



令和6年度  
「第一回TWBアクセラレーター2024」  
パートナー企業等募集説明資料

令和6年3月28日

富岡町企画課企画政策係

# はじめに

---

富岡町では、サテライトオフィス「とみおかワーキングベース（以下、「TWB」という）」開設に合わせて、オープンイノベーション施策として富岡町アクセラレータープログラム「TWBアクセラレーター2024」（以下、「TWBA2024」という）を開催いたします。

富岡町が主催するTWBA2024では、スタートアップ企業と大企業等の連携によるオープンイノベーションの実現を目指しています。TWBA2024は、富岡町が抱える地域の課題および大企業等が解決したい課題や実現したいテーマに基づき、斬新な発想や技術を有するスタートアップ企業とのマッチングを行い、事業化に向けた支援を行います。

このたび、令和6年度のTWBA2024の事業※において、スタートアップ企業と富岡町に拠点を置く企業等の連携により、新規事業の創出や新たな製品・サービスの開発などに取り組みの意欲がありアクセラレーターのホスト役となる企業（以下、「パートナー企業」という。）を募集します。

※ 富岡町は本事業を「テルウェル東日本株式会社」に運営委託し実施しています。  
（以下、本事業を富岡町からの委託を受けて実施する者として「運営受託者」という。）

## 1 パートナー企業の募集

# 対象企業

---

以下に合致する企業を募集・審査の上、採択し、スタートアップ企業との連携による新規事業の創出等を支援します。

**対象企業**は、富岡町に拠点があり、スタートアップ企業との連携による新規事業の創出や新たな製品・サービスの開発などに取り組む意欲のある企業※

※株式会社以外の形態も含みます。いわゆる「大企業」に限らず、従業員数や資本金額などの企業規模は問いませんが、自社が持つ一定の経営資源（人材、技術、ノウハウ、情報、顧客ネットワーク、施設等）をスタートアップ企業に提供できることを前提とします。

※単独の企業だけでなく、地域の企業や同業種の企業が複数集まるほか、自治体や各種団体と連携した「企業グループ」として応募いただくことも可能です。

## 1 パートナー企業の募集

# 応募資格

---

- ・「富岡町災害復興計画（第二次）後期」を促進できる分野・事業テーマを有していること。
- ・スタートアップ企業と連携したい事業テーマを有していること。
- ・連携するスタートアップ企業に対して、自社の持つ経営資源（人材、技術、ノウハウ、情報、顧客ネットワーク、施設等）を積極的に提供できること。
- ・富岡町に拠点（本店、支店、事業所、研究所等）を有する法人であること。 ※ 1
- ・スピード感を持って、スタートアップ企業との連携に取り組み、創出されたプロジェクトについて、令和6年度末時点での進捗に関する情報発信ができること。
- ・本支援により行った活動について、広報活動や情報発信を積極的に行うこと。 ※ 2
- ・TWBの会員であること（応募時点で会員でない場合）。 ※ 3

※ 1 現在拠点が富岡町にない企業であってもTWBの会員となることにより対象企業とします。

※ 2 採択時、スタートアップ企業の募集時やプロジェクト成立時、実証実験開始時など、節目節目において自らプレスリリースを行うほか、自社サイトやSNSに掲載するなどの活動を想定しています。プレスリリースは必ずしも行う必要はありませんが、積極的な情報発信をお願いします。

※ 3 本募集への応募をもって、TWB会員申込みに同意したものとさせていただきます。

## 1 パートナー企業の募集

# 募集期間・採択の決定時期

---

### ◎ 募集期間

令和6年5月24日（金曜日）から6月24日（月曜日）まで

### ◎ 決定時期

令和6年6月下旬（予定）に採択します。

採択決定後、結果は全ての申込者の連絡先（メールアドレス）に通知します。

なお、応募後、審査のために応募内容についてヒアリングを行うことがありますので、御対応ください。

## 1 パートナー企業の募集

# 採択されたパートナー企業に対する町の支援内容

---

- ・富岡町が提供するオープンイノベーションプラットフォーム（CrewwGrowth※）を活用して、アクセラレータープログラム「TWBA2024」をホスト企業として開催できます。
- ・採択企業が提示するテーマ（新規事業や今後、力を入れて取り組みたい領域、解決したい課題等）に対して、全国8,000社以上の登録があるデータベースの中から技術・アイデアを有し、連携して取り組む意欲のあるスタートアップ企業を広く募集し、マッチングおよびオンラインブラッシュアップ、プレゼンテーションを行えます。
- ・スタートアップ企業選定後は、事業化に向けたコンサルティングや実証に向けた関係機関との調整、フィールドの確保、モニター募集、広報活動、プレスリリースなどにより、プロジェクトの実現を支援します。
- ・最終選考事業化決定後は、実証実験の場として町保有のハードアセットの使用、富岡町保有の各種オープンデータの提供支援、富岡町で活用できる国・県・町・福島イノベーション・コースト構想推進機構等の各種補助金の紹介、補助事業の利活用の支援を行います。

※Creww Growthは、Creww社が提供しているオープンイノベーションプラットフォームです。Creww社のデータベースに存在する約8,000社以上のスタートアップへ告知でき、アクセラレータープログラムの開催からエントリーされたアイデアの管理、アイデアの選考やスタートアップとのコミュニケーションまでをこの「プラットフォーム」上ですべて行なえます。

## 1 パートナー企業の募集

# 参加費用

---

参加費用は無料とします。

ただし、スタートアップ企業とのプロジェクトの協議・進行の中で自社において発生する交通費・通信費や、新規事業等の開発や実証実験・PoC等の実施にあたって自社で発生する必要な費用については御負担ください。

## 1 パートナー企業の募集

# 今後のスケジュール

---

① 6月下旬：パートナー企業および事業テーマの採択

② 7月上旬：アクセラレータープログラムの開始  
(スタートアップ企業を募集するページの掲載)

※オープンイノベーションプラットフォーム (CrewwGrowth) による

③ 8月上旬：スタートアップ企業の一次選考

④ 8月上旬～9月上旬：オンラインブラッシュアップ

⑤ 9月上旬：スタートアップ企業の二次選考 (採択)

⑥ 10月上旬：プレゼンテーション

⑦ 10月中旬：最終選考事業化決定 (採択)

⑧ 10～11月頃：シンポジウム (デモデイ)

⑨ 11～2月頃：採択事業への実用化支援

※上記は予定であり、今後変更の可能性があります。

## 1 パートナー企業の募集

# 応募方法・記載事項

公告後、富岡町役場のホームページに掲載されている応募フォームにて応募ください。

令和6年度「TWB アクセラレーター2024」におけるパートナー企業等応募フォーム

### ① 企業情報

事業会社（ふりがな）	
住所	本社 富岡町での拠点
代表者役職・氏名	
設立年月日	
資本金	
従業員数	
売上高	
事業概要	
ウェブサイト URL	

### ② 実施体制

--

### ③ 連携テーマ・解決したい課題

連携事業テーマ・領域	
解決したい課題	

### ④ 活用可能な自社の経営資源・リソース

--

### ⑤ オープンイノベーションへの意欲や会社方針との関係

--

### ⑥ ご担当者

担当部署	
所属住所	
役職・氏名 （ふりがな）	
電話番号（必須）	
メールアドレス（必須）	

## 1 パートナー企業の募集

# 応募フォーム【記載事項】

---

### ①企業情報（法人名、住所、事業概要等）

### ②実施体制

スタートアップ企業との連携を検討するにあたっての実施体制及び、事業実現に向けた開発や実証実験等に関する体制を記載してください。可能な限り、社内の部署間連携などについても記載してください。体制はスタートアップ企業との連携にあたっての責任部署、関係部署、関係者の人数や役職など具体的に記載してください。特にプロジェクト責任者、責任者が所属する部門のミッションは必ず記載してください。

### ③連携テーマ・解決したい課題

スタートアップ企業と一緒に解決していきたい課題や、新しく挑戦をしていきたいテーマ・領域を記載してください。

### ④活用が可能な自社の経営資源・リソース

スタートアップ企業と連携を進めていく上で、提供や利用の検討ができる自社の経営資源※を明記してください。

※施設などハード面、人的サポート、自社が有する技術・ノウハウ・情報、顧客ネットワーク等

### ⑤オープンイノベーションへの意欲や会社方針との関係

スタートアップ企業との連携により、オープンイノベーションの取組を進めるにあたっての想いや意欲を記載してください。また、会社の経営方針や戦略など、オープンイノベーションの取組の位置付けなどがあれば記載してください。

### ⑥ご担当者（担当部署、連絡先、メールアドレス等）

## 1 パートナー企業の募集

# 審査基準

次の基準に基づき、採択企業を決定します。

項目	視点
①企業の状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・一定の経営資源(人材、技術、ノウハウ、情報、顧客ネットワーク、施設等)を保有しているか。</li><li>・会社の財務状況が健全で事業活動が採択企業としてふさわしいか。</li></ul>
②実施体制	<ul style="list-style-type: none"><li>・スタートアップ企業と連携するために社内において十分な連携・実施体制が組まれているか。</li><li>・人員リソースは充分か。スタートアップとの連携窓口になる部門だけでなく、経営層や関連する事業部門を巻き込んでいるか。</li></ul>
③テーマの妥当性	<ul style="list-style-type: none"><li>・多数のスタートアップからの提案が見込めるテーマであるか。(対象領域が極度に限定されていないか。もしくは過度に抽象的・曖昧すぎるテーマとなっていないか。)</li><li>・主体的に取り組むテーマとして積極的に関与するものであるか。</li><li>・テーマは社会課題解決に繋がるものであるなど、行政が支援するものとしてふさわしいか。</li></ul>
④提供できる経営資源	<ul style="list-style-type: none"><li>・スタートアップ企業に提供できる経営資源(リソース)が、スタートアップ企業の成長に繋がるなど、スタートアップ企業にとって魅力的なものであるか。</li></ul>
⑤オープンイノベーションへの意欲・理解	<ul style="list-style-type: none"><li>・1社との集中的な連携に限らず、幅広いスタートアップ企業からの提案を検討し、複数社との連携を受け入れる意欲があるか。また、受委託関係ではなく、対等な関係で進めていく認識を持っているか。</li><li>・会社方針としてオープンイノベーションの取組を進めていくこととなっているか。</li></ul>

## 2 留意事項

---

(1) 以下のいずれかに該当する場合には、判明した時点で参加対象外といたします。

- ・ 応募企業が、法令等もしくは公序良俗に違反し、又はそのおそれのある場合
- ・ 応募内容に不備がある場合、または応募企業が、応募に際して虚偽の情報を記載し、その他富岡町及び運営受託者に対して虚偽の申告を行った場合
- ・ 本プログラムに参加するスタートアップ企業をはじめとする関係者に向け、自社製品・サービス等の販売等、もっぱら営業行為を目的としている場合、または自社の独自のプログラム参画を誘導する場合
- ・ 連携により解決しえない課題・ニーズの提示や、共有すべき経営資源の不足など、スタートアップ企業との連携可能性が見込めないと富岡町及び運営受託者が判断した場合
- ・ その他、本プログラムの参加に不適切である旨富岡町及び運営受託者が判断した場合

(2) 本プログラムにおけるスタートアップ企業との連携に関して、富岡町及び運営受託者が一切の保証を行うものではありません。

## 2 留意事項

---

(3) スタートアップ企業へ提供するパートナー企業固有のリソースの内容、知的所有権については当該パートナー企業に帰属します。ただし、特許・実用新案、企業秘密やノウハウなどの情報の法的保護については、当該パートナー企業の責任において対策を講じた上で一般に公表しても差し支えない範囲で情報提供・共有等をしてください。

(4) 本応募により提出いただいた企業情報は、法令に定めのある場合や当該企業が同意している場合を除き、目的外利用することや第三者に提供することはありません。

(5) 採択された場合、採択企業名及び、スタートアップ企業との連携プロジェクトの進捗等については、富岡町やTWBのサイトやウェブ記事、アプリにより発信いたします。

# 本事業に関する問合せ先

富岡町 企画課 企画政策係

担当: 櫛田

電話番号: 0240-22-9010(直通)

メールアドレス: [tom0200-003@tomioka-town.jp](mailto:tom0200-003@tomioka-town.jp)

# とみおかワーキングベース (TWB) アクセラレーター2024

Webセミナー 2024.3.28



creww growth

## — 本日のアジェンダ

1. Crewwの紹介 ----- P3～P6
2. オープンイノベーションについて --- P7～P12
3. スタートアップについて ----- P13～P17
4. サポート体制 ----- P18～P19
5. スケジュール ----- P20～P21
6. Appendix 今後の進め方のポイント - P22～P27



# Crewwの紹介

About Creww





## 会社概要



会社名	Creww株式会社	資本金	10億8455万円（その他資本剰余金含む）
設立	2012年8月13日	従業員数	約40名 (2022/3月現在)
代表取締役	伊地知 天	株主	経営陣 Incubate Fund SMBC Venture Capital 株式会社シグマクス・インベストメント East Ventures Mistletoe Japan 合同会社 環境エネルギー投資 NOW SuMi TRUSTイノベーション投資事業有限責任組合 IFホールディングス株式会社 オープンイノベーションファンド投資事業有限責任組合 みらいコンサルティング株式会社 株式会社みらいワークス リッキービジネスソリューション株式会社 あわぎん未来創造投資事業有限責任組合 株式会社タスク 株式会社Fun&Creative Growth Innovation Fund
取締役	水野 智之 高橋 慧 高田 尚武 和田 圭祐 小西 享		
常勤監査役 監査役	岸 利賢 平松 庚三 菅沼 匠		
執行役員	中島 克也 田尻 瞳		



## — Crewwのプラットフォーム

# スタートアップコミュニティを中心とした Crewwのネットワーク



Creww株式会社は「大挑戦時代をつくる。」をビジョンに掲げ、スタートアップコミュニティの運営や国内トップクラスを誇るアクセラレータープログラム事業を展開しています。



スタートアップ登録数

8,000<sup>+</sup>



事業会社数（累計）

450<sup>+</sup>回



イノベーター数

8,000<sup>+</sup>人

(2022.3.1時点)

## Crewwが発信するオープンイノベーション

Crewwのオープンイノベーションプログラムが結びつける、  
事業会社/自治体とスタートアップの狙いの「違い」が大きな相乗効果を生み出します。



**双方の成長機会を実現**



# オープンイノベーションについて

About Open Innovation

# なぜオープンイノベーションなのか

顧客ニーズの多様化に伴うプロダクトサイクルの短期化など、ビジネス構造が変革する過度期である昨今、国内では大企業とスタートアップが新たな技術やサービスを開発する為にオープンイノベーションの活用に取り組む機会を皮切りに、中堅/中小企業や自治体を中心とした取り組みが盛んとなってきました。

## 顧客ニーズの多様化 --- ユーザーの論理

- インターネットの発達による情報の入手・発信が軽易に
- 多様な価値観に対応したサービスや商品が台頭
- コロナ禍の影響によりサービスや手段のデジタル化ニーズ



## プロダクトサイクルの短期化 --- 企業の論理

- AI/ IoT /5G などの革新的な技術刷新
- 多様な新製品やサービスの急速な誕生
- 加速するサービス提供・開発プロセスのデジタル化ニーズ



- ✓ ITリテラシーによって対応スピードに差が出てしまう
- ✓ クローズドイノベーションの体制では生産が追いつかない



# オープンイノベーションのメリット

## 1 合理的かつ実現可能な事業連携



- 社会実装を目指すスタートアップが保有するサービスを地域の課題にマッチするかなどの検証をスピード感を持って取り組むことが可能です。
- スタートアップとオープンイノベーションを実施する場合、多くの自治体でナレッジが乏しいテクノロジー領域を補完し得るパートナーとなる。そのため、DX推進やITを絡めた連携を推進できる。

## 2 外部からの気づきの価値

- 新たな事業領域へのきっかけとなる「地域のリソースの魅力」への気づき
- ユニークな技術やアイデアを持つスタートアップとの連携においては、自治体単体では実行できない様な視点での可能性を模索できる。



## 3 人材交流と風土の変革



- 異業種であるスタートアップと行う事業連携により、スタートアップマインドの醸成が期待できる。

# スタートアップ連携に必要な観点

## 1 スタートアップの理解



- 「何をやるか」より「誰と組むか」「なぜ組むか」の方が重要。
- 連携パートナーであるスタートアップを理解する所から共創が始まる。

## 2 ゴール設定

- 自治体にとってのオープンイノベーションや成功の定義を明確化することも重要。
- 未来の地域創造の為の共創である事、社会や生活者の課題を解決するビジネスの本質を理解した上で連携案を共に作っていくことが重要。

## 3 組織・環境を新たに創る



- 新しい事に挑戦するには組織そのものが未来に向けて変化していくことが必要。イノベーターが活躍できるよう既存のルールとは異なる“出島“のようなプロジェクトチームを設け、関連部署を巻き込むこんだ動きができると理想的。
- トップコミットメントにより例外や挑戦を許容し、町の決定事項として強力に推進する体制も重要。

## オープンイノベーションが採用される背景



### Facebook : 大型太陽光ドローンプロジェクト

[FacebookのAquila大型太陽光ドローンはインターネット接続を万人に提供する](#)



### 英グーグル : 囲碁の人工知能(AI)「アルファ碁」

[囲碁「人類対機械の最終決戦」 初戦、中国の九段敗れる](#)



### ダイムラー : 自動運転車「Mercedes-Benz F015」

[メルセデスが作った動くリビングルーム](#)

※引用 :

<https://jp.techcrunch.com/2017/07/01/20170629facebook-aquila-drone-completes-it-second-testflight-lands-well-this-time/>

<https://www.gqjapan.jp/car/news/20150114/mercedes-benz-f015-luxury-in-motion>

[https://www.asahi.com/articles/ASK5R5F0CK5RUCVL016.html?iref=pc\\_ss\\_date\\_article](https://www.asahi.com/articles/ASK5R5F0CK5RUCVL016.html?iref=pc_ss_date_article)

## 各地で実施されている地域型オープンイノベーション



発注機関：品川区  
区内中小製造業4社の新規事業創出、業務課題解決や社内DX化などを全国のスタートアップと目指す取り組み。



発注機関：関東経済産業局  
関東の地域企業と全国のスタートアップによる事業創出を目的としたオープンイノベーションプログラム。



発注機関：広島銀行  
金融商材以外の新しいビジネスの1つとして自行の法人顧客向けにオープンイノベーションプログラムを提供。



発注機関：埼玉県  
県内4つのプロスポーツチームと全国のスタートアップとの事業連携を狙う取り組み



# スタートアップについて

About Startups

# スタートアップとのオープンイノベーション

合理的な事業創出の手法としてオープンイノベーションがより加速化している近年、特に注目されているのが「スタートアップとのオープンイノベーション」です。

## 「スタートアップ」とは

先進的な技術やアイデアを強みに、ゼロから市場やビジネスモデル創出に挑戦する成長速度の早い企業やプロジェクトのことを指します



スタートアップ

イノベーション    スケール    短期成長

Uber    Meta    Twitter    mercari

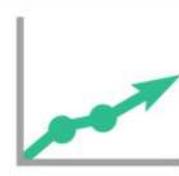
SmartHR    zoom



スモールビジネス

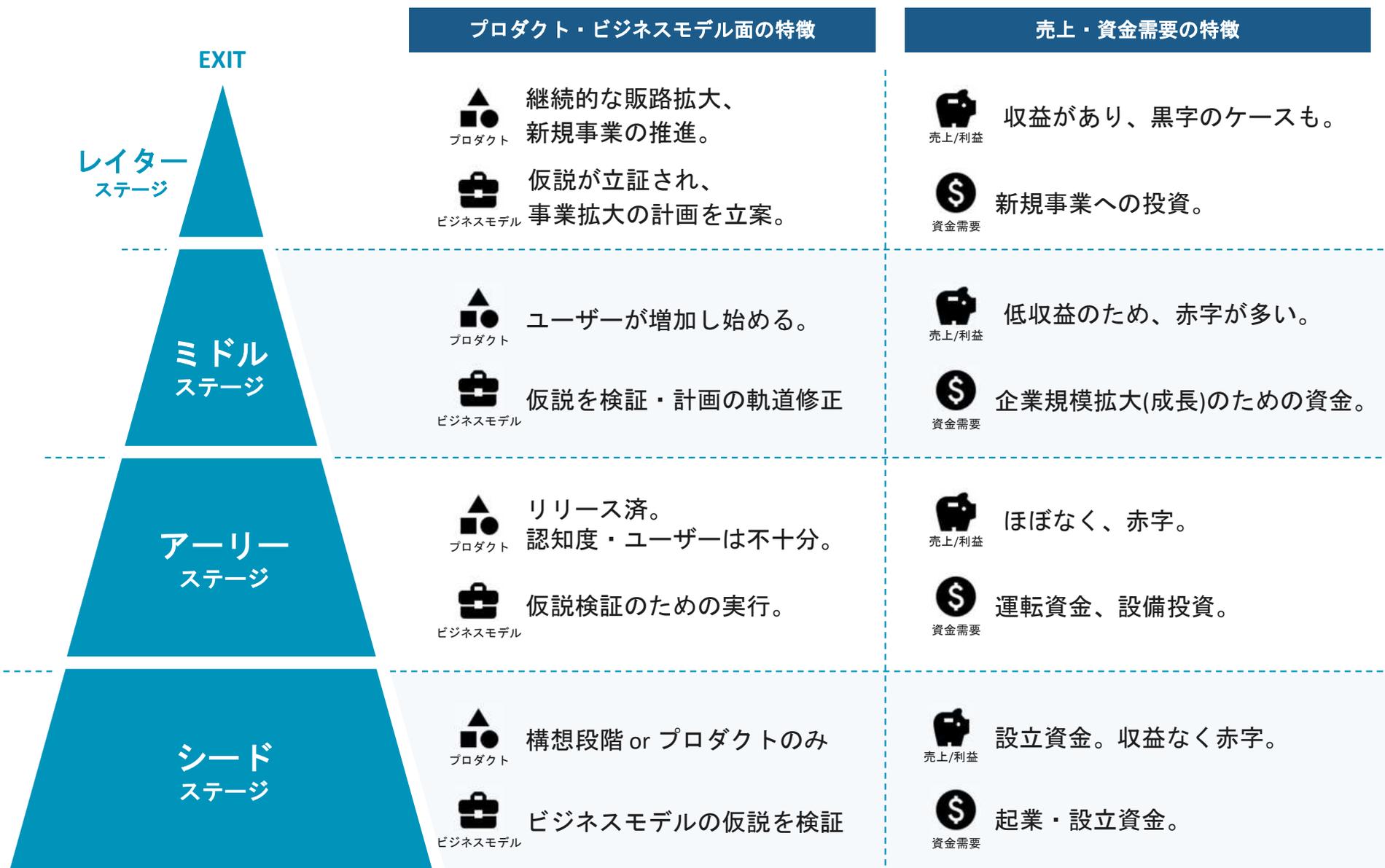
安定    バランス    長期成長

長期成長を目指す企業スタイル



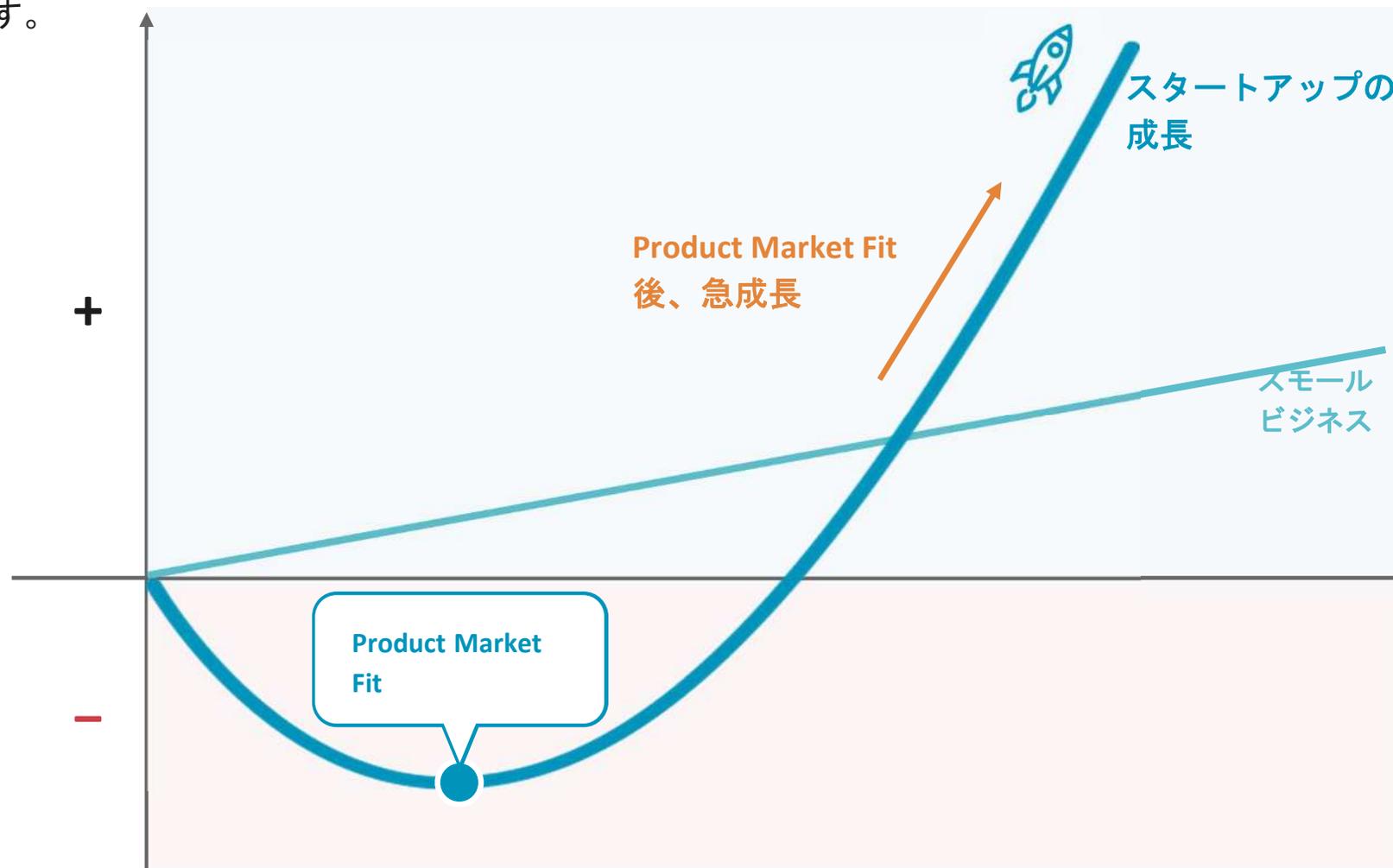
- 事業領域は様々だが、多くはITやテクノロジーを活用したビジネス
- ニッチ市場を独占するのが先で、その後周辺領域に市場を拡大する
- 成長期のスタートアップの価値は売上や利益では測れない
- 一見「悪いアイデア」に見えることもあるが実は「良いアイデア」

# スタートアップのステージ



## スタートアップの成長の特徴

スタートアップのシード期は、赤字同然で事業を進めるため、この時期に会社の売上げ等の情報にはあまり価値がありません。見るべきポイントは彼らが目指す世界観に共感できるかどうか、そのなかで一緒に取り組める余地があるかどうかです。スタートアップは**スピード感を持ってマーケットに当てに行くこと**や、社会実装に課題があるため**最適なリソースを保有する企業や自治体との連携**を望んでいます。



## スタートアップとは



崖の上から飛び降りながら、飛行機をつくるようなもの。LinkedIn創業者 リード・ホフマン



# サポート体制

Support Members

## サポート体制

全スタッフがオープンイノベーションに精通した業務経験があり、本プログラムの推進をサポートさせていただきます。

### <サポート体制>

プログラムやシステムに関するお問い合わせ

小山内（おさない）/伊地知（いじち）  
メールアドレス：[a-osanai@creww.me](mailto:a-osanai@creww.me)

PR

メディア PORT <https://port.creww.me/>  

- ・ 共創の取り組みに関するプレスリリースなど
- ・ メディア対応

2023年度の量産・販売に向けて、ブラッシュアップを加速



——アネスト岩田が2020年にアクセラを実施した背景には、どのような課題があったのでしょうか。

和泉 弊社は創業以来、圧縮機事業と塗装機事業の2つの事業で業界を牽引してきました。だが、研究開発で新製品は生み出せても、全く新しい事業を創出することが難しく、課題になっていました。アップとの協業で“飛び地”の新規事業を模索すべく、2020年にアクセラを実施しました。

——その後、香りで空間演出をするスタートアップSceneryScent社<sup>1</sup>の証実験をされています。具体的にどんな実験を重ねたのかを教えてください。

和泉 まず検証したのは、「香り」によって商品の売り上げコントロールや、新商品の販売かどうかです。「香り」による新たな体験や演出は技術面のハードルが高いため、世間ではありません。でもそれをクリアできれば非常に大きな市場にトライできる可能性があります。





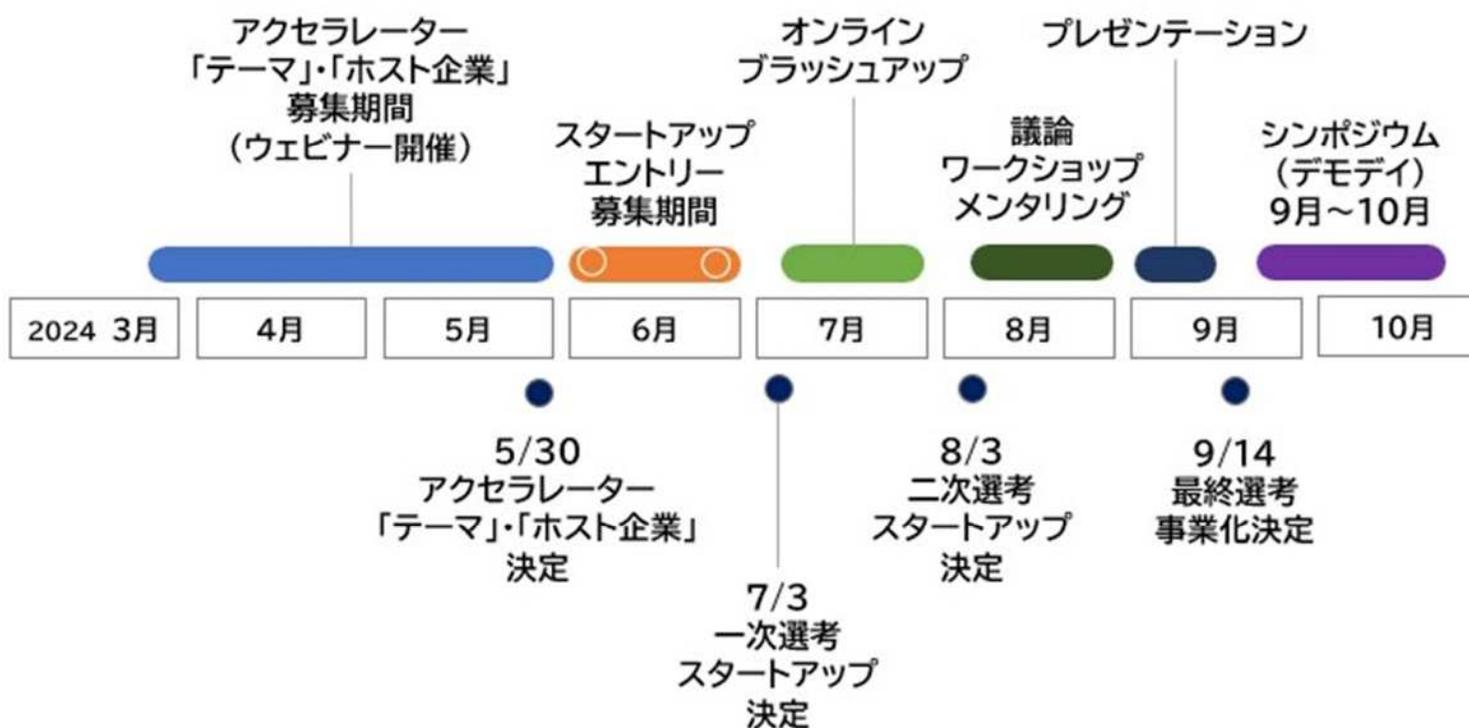
# スケジュール

Schedule



# プログラムスケジュール

## 第1回TWBアクセラレーター2024のスケジュール



※審査は一次選考が書類、二次選考が面談で行われます。

※日付、実施方法は予定であり、社会情勢などを踏まえて変更になる可能性があります。



# Appendix 今後の進め方のポイント

## — 実証実験とは

実証実験とは、開発中の製品・技術・サービスなどを実際の場面でトライアル的に使用し、実用化に向けた問題点を検証することをいいます。「想定しているニーズが本当にあるのか」「技術的に作りたい製品は開発できるのか」など、**最小限のコストと期間でスモールテスト**を行います。本格的に社会実装する手前に検証する範囲を絞り、**範囲毎に実現可能性・問題点・効果等を確認すること**で双方のリスクを軽減することができます。



課題検証

想定顧客に課題  
があるかどうか



ニーズ検証

顧客が本当に  
解決したい課題  
かどうか



技術検証

解決する技術や  
製品を作れるか



販売検証

顧客が製品を  
買うかどうか

本プログラムでは、実証実験に進むパートナーを見つけ、迅速に実証実験に取り組むための予算化を目指すことを目的としています。

# ブラッシュアップの進め方の例

ブラッシュアップ

二次選考へ

## STEP 1 スタートアップを理解する

スタートアップの持つコンセプトやビジョン、創業者の人となり、手掛ける事業・サービス内容、市場やターゲット、マネタイズなどを掘り下げます。

## STEP 2 共に目指す世界観、コンセプトを設定する

自治体のリソースや強み、スタートアップのビジョンやコンセプト・事業を掛け合わせてどのような世界観を実現したいのか、どのような結果を得たいのかを設定し、双方で共通認識を持ちます。

## STEP 3 全体のロードマップ/直近のロードマップを策定する

共に目指す世界観の実現に向けて、どのようなステップを踏んで進むかの長期的な全体ロードマップを策定します。また策定した全体ロードマップを分解して、実現に向けてより具体的に「誰がどのような役割で何を行うか」を2者間で策定します。

## STEP 4 実証実験概要を策定する

ロードマップ上の最初の取り組みとしておこなう、実証実験について策定します。「まずやってみる」ことが可能なように、なるべく具体的に落とし込みましょう。

- ・ 実証実験の概要（目的）
- ・ 期間/実施場所/参加者
- ・ 実証実験費用
- ・ ネクストステップの条件

理想ありきで、まずは世界観を広げましょう！

社会課題、あったらいいな、できたら便利、など。

実現可能なプランへ落とし込みましょう。

前例がなく具体化が難しいようであれば、まずは市場性やターゲットを図ることを実証実験とするなど。

このようなステップを経て、スタートアップと協力して連携案を磨き上げましょう。  
※これらは進め方の一例です

## 参考：プログラムを成功させる、ブラッシュアップのポイント

Point

1

### 迅速なレスポンスを

スタートアップの多くは0→1を生み出しているため、サービスやプロダクトをいち早くマーケットへアプローチし、短期間で成長したい企業ばかりです。

本プログラムでは直接的にスタートアップとやり取りするシーンがありますので、極力スタートアップのスピード感に沿った迅速なレスポンスにご協力ください。

Point

2

### 対等な立場で、共に創る

本プログラムは決して下請け業社や委託業社を探す場ではありません。双方のリソースを同じテーブルに出し合い、一緒にどのような取り組みが可能なのかを模索する場です。どちらかが一方的に提案する形でなく、お互いが意見を対等な立場で出し合うことで双方に実利のある形を生み出せます。

Point

3

### 実行体制を構築しましょう

本プログラムを通じて、共に実証実験に進むスタートアップを採択いただきますが、採択することがゴールではなく、採択した連携案をいかにスピード感を持ってマーケットへあてるか（実証実験）がキーとなります。誰を巻き込むべきか、どのように展開していくべきかも含めてお取り組みください。



## 参考：スタートアップとの共創を進める際に陥りやすい落とし穴 8選

#01



短期間での収益化・事業化を目的とってしまう

### 目的のズレが原因

スタートアップとの連携で実現したいことは何なのか、何が実現できれば取り組みとして成功と言えるのか双方で共通認識を作っておくことが必要です。収益を生み出したいだけであれば、手段はスタートアップとの共創でなくても良いかもしれません。スタートアップとの連携だからこその取り組みに焦点を当てるようにしましょう。

#02



現場と意思決定者の目線がズレてしまう

### 期待値のズレが原因

連携プランをどのように捉えるか、評価するかも事前にすり合わせておく必要があります。ハードルは高く設けすぎないことが基本ですが、評価軸を元に判断していかれると良いでしょう。

#03



スタートアップからの提案・アイデアに頼りすぎてしまう

### 期待値のズレが原因

スタートアップの技術・アイデアは斬新で刺激的なものが多くあります。とはいえ、自治体で実装を目指すべき取り組みが何でもOKというわけではありません。スタートアップからの提案だけを待つのではなく、現実的に着地できるラインを双方で見つけるために議論していきましょう。

#04



連携プランに求めるハードルが高くなってしまう

### 期待値のズレが原因

連携プランの精度に対して確実性を求めてしまいがちです（マーケットはあるのか、顧客はいるのか、成功するのか等）。まだ世の中にはない、認知されていない、新しい取り組みにどう反応してもらえるのか、その取組に挑戦する価値があるのかを判断するために行うのが実証実験です。初動のハードルを高く設けすぎず、連携の形は変わっていく前提で、検証主義で進めていく必要があります。

## 参考：スタートアップとの共創を進める際に陥りやすい落とし穴 8選

#05



売り込み提案に思考停止してしまう

期待値のズレが原因

提案の中にはスタートアップのプロダクト・技術の売り込みに見えるものもあります。募集ページの限られた情報の中でエントリーしてきていますので、提案時のプランは一つのきっかけとして、議論のなかで連携の発展可能性を話し合うことをおすすめします。

#06



連携案に必要な検討要素が漏れてしまう

段取り不足が原因

上層部に連携案を進めていくのかどうかの判断をしてもらう必要があるため、その判断に必要な情報を提示・提供する必要があります。連携案の実行に必要な検討要素を外さないようにブラッシュアップ期間中にスタートアップと内容を詰めていくことが必要です。

#07



意思決定者への進捗報告なしにプレゼンに臨んでしまう

段取り不足が原因

上記の項目と同様、意思決定者に必要な情報を提示・提供する必要があります。プログラム自体の実施背景・目的（スタートアップとの連携を進める必要性等）はもちろんのこと、選考通過理由、連携するスタートアップの概要、連携案の論点などを事前に共有しておくことが重要です。

#08



関連する課との連携に移行後丸投げのまま放置してしまう

段取り不足が原因

各課は本業中心で動いているため、連携の優先順位が下がりがちです。連携する課への情報共有・連携上の課題把握等は予め行っておくようにするとスタートアップとしても心強いと感じます。